

☆ 新「京（みやこ）・子どもいきいきプラン」に掲げた重点施策等の平成１９年度における主な取組

《第１章》子どものいのちと人権が大切にされるまちづくり

○ 市民・地域ぐるみで進める子育て支援の風土づくり

社会全体で子育てを支援していく風土づくりを進めるため、次の事務事業を実施しました。

ア 子どもを共に育む京都市民憲章の推進 ＜予算額：7,200千円＞

平成１９年２月５日に制定した「子どもを共に育む京都市民憲章」の理念を日々の暮らしに生かし、市民一人一人の実践行動につなげるための取組を推進しました。

【保健福祉局 児童家庭課，教育委員会事務局 家庭地域教育支援担当】

イ 子ども・子育ていきいきフェアの開催 ＜予算額：4,000千円＞

平成１８年度に引き続き、市民・地域ぐるみで子育てを支え合う気運を醸成する契機とするため、子どもと家庭に関わる保健・医療・福祉・教育各分野で活動する機関・団体、企業や学生などが一堂に会するイベントを開催しました。（平成２０年１月１２日、みやこめっせ）

【保健福祉局 児童家庭課】

ウ 083, 273 子育て支援活動いきいきセンター（つどいの広場）の拡充：《第２章関連》

＜予算額：25,315千円＞

子育て中の親の負担感や孤立感を緩和し、安心して子育てができる環境を整備するため、子育て中の親子が気軽に集い、交流できる場所を新たに５箇所開設しました。（既設と合わせ市内計９箇所）

（参考）数値目標設定施策 ９箇所（平成１９年度）→２０箇所（平成２１年度）

【保健福祉局 児童家庭課】

エ 055 地域子育て支援ステーションの拡充：《第２章関連》 ＜予算額：46,050千円＞

小学校区を基礎単位に、市民に身近な地域レベルでの相談・支援センターとして、新たに１０箇所の保育所、児童館を指定しました。（既設と合わせ市内計１６０箇所）

【保健福祉局 児童家庭課】

オ 006, 067 育児支援家庭訪問事業：《第２章関連》 ＜予算額：61,321千円＞

子どもの養育について支援を必要としながらも自ら積極的に支援を求めない家庭に対し、訪問等による援助活動を行いました。（平成１７年１２月から、子ども支援センター（福祉事務所）及び保健所で実施）

【保健福祉局 児童家庭課，保健医療課】

○ 033 障害のある児童・生徒の教育の充実 ＜予算額：19,294千円＞

教職員のより一層の指導力の向上を図るため、ＬＤ等の発達障害のある子どもへの適切な支援を取り入れた授業構築や具体的な支援のあり方を指導する実践研修資料「ＬＤ等支援の必要な子どもへの具体的指導」（ビデオ）を制作しました。また、教育委員会の関係課がそれぞれの視点を盛り込んだリーフレット『「困り」を感じている子どものサインに気づいていますか』を共同で作成しました。

【教育委員会事務局 総合育成支援課】

《第2章》次世代をはぐくむすべての家庭を支援し支え合えるまちづくり

○ **074, 090** 京（みやこ）・いきいき子育てサポート事業 <予算額：28,970千円>

ア ファミリーサポート事業の拡充

育児援助等を行いたい市民と援助を受けたい市民とが、それぞれ提供会員と依頼会員となり、相互に育児を助け合うファミリーサポート事業を拡充し、子育てを地域ぐるみでバックアップできる体制をより一層充実しました。

- ・市内14箇所の児童館（各区・支所1箇所）に支部を新設しました。
- ・利用対象を「概ね生後3箇月から満12歳までの子を持つ家庭」から「妊婦及び満12歳までの子を持つ家庭」に拡大しました。
- ・支援内容について、妊婦又は概ね生後3箇月までの子がいる家庭を対象として、依頼会員の自宅における育児・家事の援助サービスを開始しました。

【保健福祉局 児童家庭課】

イ 子育てボランティアバンク事業

児童館・学童クラブ事業やファミリーサポート事業などに積極的に参画してもらえる子育て知識の豊かなボランティアを養成するため、登録制度を創設するとともに、講習会を実施しました。

【保健福祉局 児童家庭課】

○ **110** みやこユニバーサルデザインの推進 <予算額：8,696千円>

- ・ 冊子「「だれもがわかりやすい印刷物のつくり方」の発行

高齢者、子ども、障害のある方など、できるかぎり多くの方々がわかりやすい印刷物を作成するために、配慮すべき事項をまとめた冊子を発行しました。特に本冊子では、色弱者にとってもわかりやすいものとなるよう、カラーユニバーサルデザインに関する内容を充実させました。

- ・ みやこユニバーサルデザインフォーラム（みやこ UDF）運営支援

障害のある方をはじめ、様々な分野の専門家、市民ボランティアなどの参加と協働で、ユニバーサルデザインに関する情報交換や調査研究、実践等を通じて、市民の主体的な取組を充実、発展させることを目的に活動する組織の立上げに向け取り組みました。

- ・ みやこユニバーサルデザイン賞の募集、表彰

企業、NPO、学校、個人などの幅広い層を対象に、まち、もの、サービスに関する具体的なユニバーサルデザインの取組事例を募集しました。平成19年度は新たに、子どもたちの理解を深め、学校や家庭で広くユニバーサルデザインの考え方の普及を目指して「子どもアイデア部門」を創設しました。

【保健福祉局 保健福祉総務課】

○ **112** 宝が池公園「新・子どもの楽園」整備 <予算額：369,000千円>

自然や人との触れ合いや様々な体験を通じて、子どもたちの感性を豊かにし、次代の京都を担う人材をはぐくむ場を創出するため、平成18年度に引き続き宝が池公園「新・子どもの楽園」の整備に取り組みしました。（平成20年3月26日開園）

平成19年度 園路広場、駐車場等整備

【建設局 緑政課】

○	127 延長保育の拡充	＜予算額：501,298千円＞
就労時間帯の多様化等による保育需要の増加に合わせ、延長保育実施保育所を150箇所から164箇所に拡充しました。		
(参考) 数値目標設定施策 164箇所(平成19年度)→190箇所(平成21年度)		
【保健福祉局 保育課】		
○	129 一時保育の拡充	＜予算額：101,282千円＞
保護者の断続的・短時間就労に伴う一時的な保育(非定型)や、保護者の傷病などによる緊急時の保育(緊急一時)、保護者のリフレッシュを図るための保育といった様々な保育需要に対応できるよう、また、未就園児童への子育て支援サービスの提供という役割を果たすことができるよう、一時保育実施保育所を29箇所から33箇所に拡充しました。		
(参考) 数値目標設定施策 33箇所(平成19年度)→42箇所(平成21年度)		
【保健福祉局 保育課】		
○	乳幼児医療費支給制度の拡充	＜予算額：1,581,163千円＞
制度名称を「子ども医療費支給制度」に変更するとともに、入院医療費の支給対象年齢を「小学校就学前まで」から「小学校6年生まで」に拡充し、また、通院医療費における3歳以上小学校就学前の自己負担限度額を「8,000円/月」から「3,000円/月」に引き下げるなど、子育て家庭の経済的負担を軽減しました。		
【保健福祉局 地域福祉課】		
○	008,142 配偶者等に対する暴力の防止に関する取組	＜予算額：6,303千円＞
ドメスティック・バイオレンスについて被害の実態を把握し、被害者のニーズに沿った施策の見直しに生かしていくことを目的として、配偶者等からの暴力に関する調査を実施するなど、被害者の支援に取り組みました。		
【文化市民局 男女共同参画推進課】		

《第3章》子どもを安心して生み健やかに育てることのできるまちづくり

○	176 不妊治療費助成制度の拡充	＜予算額：107,433千円＞
国基準で定める医療保険適用外の不妊治療を受ける人に対する治療費の助成制度を拡充しました。		
・助成額を「1年度あたり10万円まで」から「治療1回あたり10万円まで、1年度あたり2回まで」に拡充しました。 ・所得制限を「前年所得650万円未満」から「730万円未満」に緩和しました。		
【保健福祉局 保健医療課】		

○	193	子どもの事故防止実践マニュアルお届け事業	＜予算額：2,558千円＞
子どもたちの死亡原因の第1位である「不慮の事故」の防止と普及啓発を図るため、子ども保健医療相談・事故防止センターで作成した「子どもの事故防止実践マニュアル」及び「子どもの事故の応急手当マニュアル」を、「出産お祝いレター」と共に子どもが生まれたすべての家庭に配布しました。 【保健福祉局 保健医療課】			
○	200, 211	地域ぐるみの子ども安全推進：《第4章関連》	＜予算額：7,400千円＞
全小学校区において、約2万人ものボランティアに参画いただき展開している「見守り活動」の次世代のリーダーを育成するため、「学校安全ボランティア講習会」を開催しました。他、防犯用緊急連絡インターホンの整備（5年計画3年次目、総事業費2億2,500万円）などを推進しました。 【教育委員会事務局 体育健康教育室】			
○	200, 211	子どもの安心安全情報等の発信機能を持つPTA・おやじの会ホームページの構築：《第4章関連》	＜予算額：18,045千円＞
平成18年度に引き続き、PTA・おやじの会ホームページを活用し、登録した保護者の携帯電話等に子どもの安心安全情報等教育情報をメール配信しました。 【教育委員会事務局 生涯学習部】			

《第4章》次代を担う子どもたちが心豊かに生きる力をはぐくむことができるまちづくり

○	032	障害のある中高生のタイムケア事業	＜予算額：79,436千円＞												
総合支援学校の放課後や長期休業中において、障害のある中高生にいきいきと過ごせる活動場所を確保し、障害のある中高生の健全な育成と保護者の就労を支援するため、小学校の教室を利用した預かりサービスを市内4箇所で実施しました。 ・対象者 総合支援学校（地域制）に通学する昼間留守家庭の中学生及び高校生 ・実施日時及び利用料金 <table> <tr> <td>月曜日から金曜日</td><td>放課後～午後6時</td><td>:</td><td>800円</td></tr> <tr> <td>土曜日及び長期休業中</td><td>午前9時～午後6時</td><td>: 1日（9時間）</td><td>1,500円</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>半日（4時間）</td><td>800円</td></tr> </table> 【保健福祉局 障害保健福祉課】				月曜日から金曜日	放課後～午後6時	:	800円	土曜日及び長期休業中	午前9時～午後6時	: 1日（9時間）	1,500円			半日（4時間）	800円
月曜日から金曜日	放課後～午後6時	:	800円												
土曜日及び長期休業中	午前9時～午後6時	: 1日（9時間）	1,500円												
		半日（4時間）	800円												
○	215	「おやじEXPO2007」開催	＜予算額：5,000千円＞												
「全国おやじサミットin京都」（平成17年9月）、「国際おやじサミットin京都」（平成19年2月）に引き続き、他のモデルとなる「おやじの会」の取組等を一堂に集めて紹介、活動の活性化を図りました。（平成19年7月8日、みやこめっせ） 【教育委員会事務局 生涯学習部】															

○ 224 こどもみらい館の「すくすく子育てアドバイス！」作成 <予算額：1,500千円> こどもみらい館で月1回実施している「館長の井戸端サロン」の内容をまとめ、実際に参加できない保護者のために、子育てに関する安心・安全アドバイス集として発信しました。 【子育て支援総合センターこどもみらい館】
○ 238, 240 理科・環境教育の充実 <予算額：60,000千円> 地球温暖化防止京都会議10周年を記念し、京エコロジーセンター・総合地球環境学研究所等と連携し、地球環境について改めて考えるイベントを開催しました。また、「環境にやさしい学校（KES学校版）」の認証への取組、風力発電設備の設置などを引き続き進めました。 【教育委員会事務局 教育環境整備室、学校指導課、青少年科学センター】
○ 239 国語力・読解力の向上 <予算額：28,000千円> 市民ボランティアの参画による学校図書館の充実や学校図書ナビゲーションシステム（子ども図書ナビ）の導入（5年計画を2年前倒し、平成19年度に整備完了。総事業費1億円）など、国語科はもとより学校教育活動全体を通じた取組を充実しました。 【教育委員会事務局 調査課、学校指導課】
○ 243 しなやかな道徳教育の推進 <予算額：5,400千円> 「親子で学ぶ道徳授業」の小・中学校30校での実施や小学校用資料集「夢いっぱい」、中学校用資料集「心の旅」「楽しい道徳！すぐに役立つ資料・指導案集」を活用した授業の展開など、学校・家庭・地域が一体となった取組を推進しました。 【教育委員会事務局 学校指導課】
○ 265 中学校3年生における30人学級の実施 <予算額：550,000千円> 全国で初めて、中学校3年生において、独自予算での講師任用により30人学級を実施し、義務教育の最終段階でのきめ細かな指導の充実と進路保障を図りました。 なお、京都市では平成15年度から独自予算により「35人学級」を小学校1年生に導入、翌年度には2年生にも拡大しています。 【教育委員会事務局 教職員人事課】
○ 「生き方探究教育」の推進 <予算額：123,325千円> 事業所等での就労体験を行う「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業や、昨年度開設した「京都まなびの街 生き方探究館」における従業員・消費者の役割を行う体験学習などを通じて、子どものころから社会の仕組みや経済の働きを学び、勤労観や職業観を育むための取組を推進しました。 【教育委員会事務局 学校指導課、地域教育専門主事室、京都まなびの街 生き方探究館】
○ 学校統合による教育環境の充実整備（子どもたちを取り巻く教育環境の整備） <予算額：558,000千円> 下京区5中学校の統合による下京中学校の開校や、市内初となる花脊地域での施設一体型小中一貫校の開校など、児童・生徒の教育環境の整備充実を図りました。 <平成19年4月に開校した学校> 下京中学校（郁文・成徳・尚徳・皆山・梅逕の5中学校を統合して開校） 花背小・中学校（別所・八樹・堰源の3小学校及び花背第一・花背第二・堰源の3中学校を統合し小中一貫校として開校） 【教育委員会事務局 教育環境整備室】

○ 272 一元化児童館の整備 ＜予算額：260,000千円（＊）＞ みょうしゅう児童館（北区）、藤城児童館（伏見区）、ふかくさ輝つず児童館（伏見区）、久我の杜児童館（伏見区）、以上４箇所の児童館を新たに開設。また、北山児童館（仮称）（左京区）の平成２０年度開設に向けて着工しました。 唐橋児童館（南区）、明德児童館（左京区）、北白川児童館（左京区）、七条第三児童館（下京区）、梅津北児童館（右京区）、桂徳児童館（西京区）※名称はすべて仮称、以上６箇所の児童館の設計等に着手しました。 （＊）学校施設との合築施設として別途予算計上した久我の杜児童館と、北山ふれあいセンター（仮称）整備費において一括予算計上した北山児童館（仮称）の整備費を除く。 （参考）数値目標設定施策 １０９箇所（平成１９年度）→１３０箇所（平成２１年度） 【保健福祉局 児童家庭課】
○ 277 障害のある児童のサマーステイ事業 ＜予算額：9,500千円＞ 学童クラブ事業の対象とならない小学校等の高学年で、障害のある児童の夏季休業中の居場所を確保するため、(社)京都市児童館学童連盟が児童館を利用して実施する事業に対して助成を行いました。 ・対象者 小学校５，６年生で障害のある昼間留守家庭児童 ・実施箇所 ２０箇所 ・実施期間 夏季休業中 【保健福祉局 児童家庭課】
○ 放課後子ども教室推進事業 ＜予算額：86,478千円＞ 余裕教室や図書室等の学校施設を活用し、地域・ＰＴＡや学校運営協議会、学生等の支援の下、自主学習、読書、文化的活動などを行い、市立小学校に通う児童に放課後の「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」を確保します。平成１９年度は、５０校において実施しました。 【教育委員会事務局 生涯学習部】
○ 298 食教育の充実 ＜予算額：6,783千円＞ 地産地消（知産知消）や日本料理アカデミーとの連携によるモデル事業の拡大と、これまでの実践の集大成となる「日本料理に学ぶ食育カリキュラム指導資料集」の作成など、これまでの取組をさらに推進しました。 【教育委員会事務局 学校指導課，体育健康教育室】
○ 京（みやこ）・食のフォーラム２００７の開催 ＜予算額：5,000千円＞ 市民の食育に対する関心を喚起し、食育の推進を市民運動として展開していく契機となるよう、民間団体の協力の下、多数の市民が気軽に参加できるフォーラムを開催しました。（平成１９年１１月３日、みやこめっせ） 【保健福祉局 保健医療課】
○ こどもエコライフチャレンジ推進事業 ＜予算額：4,000千円＞ 「京都発ＣＯ２マイナス１０プロジェクト」の一環として、将来を担う子ども達に地球温暖化問題に対する理解を深めてもらうため、子ども向けの環境家計簿である「こどもエコライフチャレンジ」を用いて、夏休みに親子で一緒に楽しみながらエコライフに取り組む学習プログラムを実施しました（市内の１１小学校の５年生を対象）。 【総合企画局 地球温暖化対策室】